



リックス協創センター ◆所在地：福岡県糟屋郡粕屋町仲原1847-1



イトーキ
デザイナー／原田 真貴氏
地場企業や教育機関のリニューアルを手がけるなど定評がある

創業118年老舗企業が職場改善に挑戦

働き方に応じた**選択型オフィス**

オフィスの空間デザインや働き方のコンサルティングを手がけるイトーキ（東京）は、鉄鋼や自動車、半導体の製造機械や工作機械向けロータリージョイントを扱うメーカー商社・リックス（福岡市）の新研究拠点の設計・構築に携わった。新たな働き方を支える取り組みについて、キーパーソンが語る。



リックス
社長／安井 卓氏
7代目社長就任後、次の100年を育む「RIXing Action」を推進

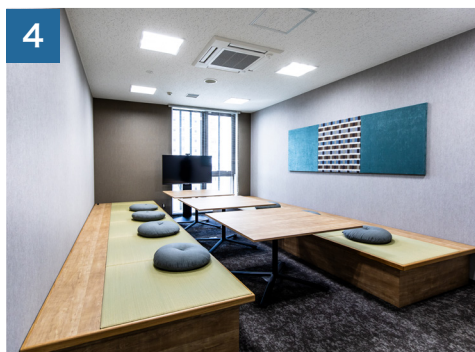
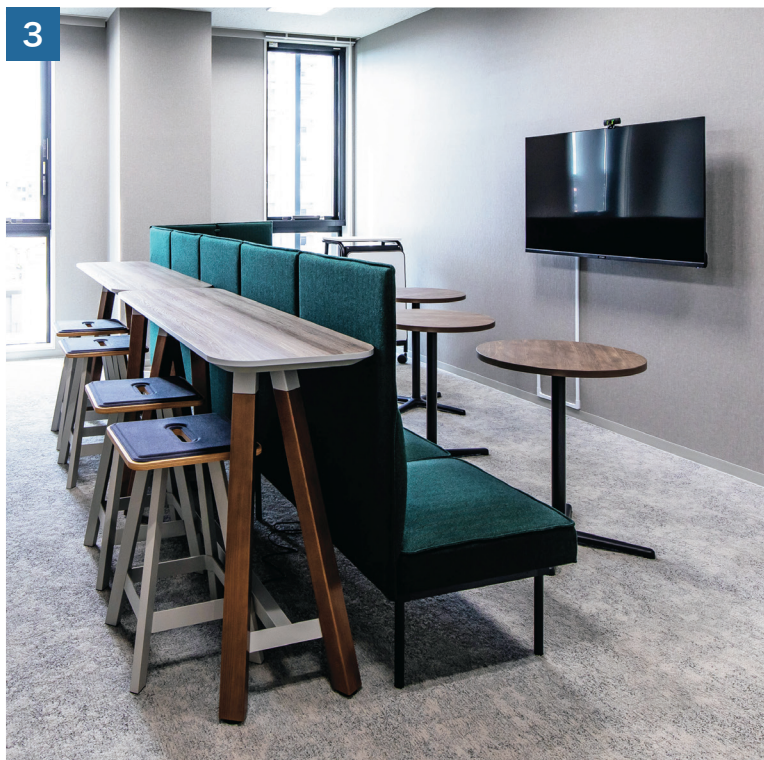
— 新設の研究・開発拠点「リックス協創センター」において、何に重点を置かれましたか。

安井 創業118年の当社にとって、次世代製品の開発は最重要課題です。そこで昨年11月、研究開発拠点を工場から独立させ、「リックス協創センター」（福岡県粕屋町）を稼働させました。計画段階から、当社の研究開発部門では初めてとなるフリーアドレスの導入やウェブ会議の増加による会議室不足の解消に加え、社員同士の交流を促し、自由な発想が生まれやすいオフィスの整備を依頼しました。

原田 これらの要望に応えるため、フリーアドレスの導入に際し、オフィスを「コミュニケーション」と「集中作業」の用途に分けるエリア設計を採用しました。二つのエリアを共存させることで、部門を越えたコミュニケーションが活発化する一方、集中力が必要な業務にも対応できています。

— どのようなことを工夫されましたか。

安井 空間のあり方がコミュニケーションを左右すると考えています。そこで、六つある会議室は、部屋ごとに異なる内装や仕様を



1 集中して業務活動ができるエリアとコミュニケーションエリアに分けることで高度な業務が可能 2 会議やイベントにも活用できるレイアウト変更可能な食堂エリア 3 異なる高さの椅子を配置し会議時にはモニターを活用し同じ方向を向くことで視線を気にせず意見が出やすい 4 畳を導入することでリラックス効果が生まれ会議にも好影響 5 は4での会議の様子

お問い合わせ先

株式会社イトーキ

mail workstyle@itoki.jp



施すことで、若手でも積極的に発言しやすい雰囲気づくりを意識しました。社員からは、以前よりも会議が活性化したとの声もあがっています。

原田 会議の質を高めるためには、従来の枠に捉われないアイデアが必要であると提案しました。一般的な対面型の会議室では、参加者同士が目を見合わせることで緊張が生まれ、意見を言いづらくなることがあります。そこで、参加者全員が同じ方向を向くレイアウトを採用し、畳やソファなどを活用してリラックスした環境を整えることにしました。また、オープンミーティングも導入することで、参加者の心理的な負担を減らし、より創造的で自由な発言が生まれる工夫も取り入れました。

— これからのオフィスに何を期待していますか。

安井 これまでの「働く場」としての役割にとどまらず、社員間で新たな会話や交流が生まれるコミュニティの場としても活用していきたいです。

原田 業務シーンに合わせて選べる環境を整えることが、さまざまな課題解決を図る場となることを願っています。